

社会福祉活動への協力に対し感謝状が贈呈されました！

徳武昭久さん(田中)は、福祉自動車導入と同時に移送サービス協力会員となり、長期にわたり活動して頂きましたが、3月に勇退されました。

この度、徳武さんの社会福祉に寄与された功績が認められ、本年7月に長野市社会福祉協議会より感謝状が贈呈されました。長年地域のためにご尽力いただき誠にありがとうございました。

(福祉健康部)



介護のつどい その②

～若年性認知症

当事者の方のおはなし～

9月18日(木)、若槻コミュニティセンター大会議室にて「介護のつどい その② 若年性認知症当事者の方のおはなし」が開催され、参加した48人が、当事者の三村俊治さんと長野県若年性認知症支援コーディネーターの伝田景光さんから様々な思いを受け取りました。

趣味は山登りとマラソン、体を動かすのが好き、そんな現在57歳の三村さんが認知症と診断されたのが4年前のこと。診断後、様々な工夫をしながら送る毎日の中で、周囲にお願いしたいのは次のことだそうです。

- ・迷惑をかけるからやらない、と思わせないで欲しい
- ・「失敗してもいいからやって！」「失敗しても大丈夫、やってみて！」と言って欲しい
- ・できなくてもいいからやらせてあげて欲しい

支援コーディネーター伝田さんの「目で見える障がいに対する理解に比べ“認知症は見た目で分からない”ため、偏見というか理解が足りないと感じる」という言葉には大勢がうなずいていました。

認知症の名称は毎日耳にしますが、いざ自分事となると慌ててしまうのが現実です。

少しでも安心できるよう、事前の心構えが大切だと感じるつどいでした。(福祉部会)



伝田さん 三村さん

環境施設見学会

10月10日、コミわか区長部会主催で、ながの環境エネルギーセンターと資源再生センターの見学会を行い、区長部役員や支所職員、若槻地区住民を含む22名が参加しました。

環境エネルギーセンターでは可燃ごみを焼却して発生する熱と電力を再利用し、熔融スラグは道路舗装材やコンクリート骨材に活用される仕組みを学びました。7日分の可燃ごみを収める巨大なピットや、余熱をサンマリーンながのへ供給する設備、周辺住民への景観配慮が印象的でした。施設は2019年に完成し見学コースが整備され、小学生向けの学習プログラムも充実しており、地域と共に開かれた運営が感じられました。

資源再生センターでは不燃・資源・プラごみの分別工程の説明があり、分別不備による異物混入や臭気問題、選別作業の重要性を実感しました。見学を通して家庭での適切な分別やゴミを減らす意識を持続けることが、資源価値を守り地域の持続可能性に繋がると強く感じました。

(区長部)

